

世界のリーファー貿易は柑橘類等で最高の成長

FreshPlaza 2023年10月11日

第15回世界低温物流会合(Cool Logistic Global)が今週、イタリアの港町ジェノヴァで開催されている。(以下、リーファー貿易に関わる主な発言のみ抜粋)

ドリュアリー社のマーティン・ディクソン氏は、ロンドンからビデオリンクで会議に参加し、リーファー(冷凍・冷蔵)輸送市場の見通しについて語った。同氏は、世界のリーファー貨物の輸送量は激動の2021年の後、2022年に0.7%減少したが、2023年は回復を示しており、引き続き増加が予測されると述べた。2022年にはすべてのリーファー貨物の推定88%がコンテナで運ばれたと見られ、これは2027年までに91%に増加すると予想される。リーファー船の増加率は2022年に1.7%に減速し、2021年をピークとして2023年にはさらに低下するものの、2024年からは4.2%に回復すると予測される。同氏はまた、2027年までにリーファーコンテナの87%が「スマート」(リーファー貨物の位置や状態をリアルタイムで追跡できるコンテナ)になると述べた。リーファーコンテナの運賃は2022年第3四半期にピークに達し、現在は予想よりも迅速に正常化されているが、ベンチマークレートはパンデミック前の水準を引き続きかなり上回ると見られる。

アクセンチュア・ストラテジー&コンサルティング社のマイケル・ルーテン氏は、リーファー市場の動向について、2023年上半期には下向きで、これは北米市場の減少によるものかもしれないが、柑橘類とタマネギは好調で、一方ドラゴンフルーツは劇的に減少したと述べた。同氏は、従来の成長率を下回る傾向にあると言っても、リーファー貿易はコンテナ化された海上貿易全体のわずか6%を占めるに過ぎないことを覚えておくことが重要だと述べた。

タマネギ、柑橘類、ジャガイモの世界的なリーファー貿易は2023年に最も高い成長を示し、タマネギ+35%、柑橘類+26%、ジャガイモ+10%を記録したが、ドラゴンフルーツは-44%で最大の減少を示した。

インドとエジプトからの輸出は活況を呈しており、これらの品目に牽引されてそれぞれ63%及び33%増加した。インドはタマネギを46%多く輸出し、エジプトは柑橘類で+54%、ジャガイモで+48%、タマネギでは大躍進の+175%の輸出量であった。

コンテナ・トレード・スタティスティクス(CTS)社のナイジェル・プーシーCEOは、リーファー指数は依然としてパンデミック前の数値を25%上回っていると述べた。中南米の貿易は増加しているが、北米と欧州の貿易は横ばいであった。サハラ以南のアフリカとヨーロッパとの間の貿易は2022年をピークに減少している。

世界全体のリーファー貿易量は、2019年~2023年の期間に概ね横ばいであったが、これは地域別の需要の変化を覆い隠しており、北米とヨーロッパが縮小する中でアジアの輸入の伸びが拡大している。世界のリーファー価格指数は、最高であった2022年第3四半期の総合指数に対して70%に下がっている。

シェイプ社のケリー・ホブソン氏は明日、持続可能性が我々に、個人として、そして企業としてどのような影響を与えるかについて話すこととなっている。持続可能であるためには変革の段階があり、企業は環境への影響を減らすために意識的な決定を下さなければならない。

データマー社のアンドリュー・ロリマーCEOは、パンデミック後の南米では、主に船舶の容量を超過したために貨物の輸送コストが高騰し、従来型(非冷蔵)の船の使用につながったが、今年はそれは起こっていないと述べた。

南米諸国(アルゼンチン、ブラジル、チリ、パラグアイ、ウルグアイ)から35万3,948TEU(20フィート換算のコンテナ数)の果実が輸出され、その57%がヨーロッパ向けである。

最大の新しい傾向の1つは、ブラジル産アボカドの輸出量であり、2022年から266.5%増加して1千TEUとなった。主な輸出先はヨーロッパである。チリのサクランボも今年は記録的な量になると見られる。

執筆者: ニコラ・マクレガー